

編集後記

AJ ジャーナル第 2 号は、いずれも教育現場での手ごたえを感じさせる 11 本の論考からなる。「アカデミック・ジャパニーズ」の「アカデミック」の含意は、単なる「大学での学び」にとどまるものではなく、「大学までの学び」、「大学を出てからの学び」を包括するものであることが、今号の論考の教育現場の多様さからもうかがえる。

今後、大学や日本語学校での日本語教育は、現在の持ち場の日本語教育を充実させるだけでなく、持ち場以外での国際化（例えば、地域日本語教育や市民へのコミュニケーション教育等）への貢献を、より一層求められることになるだろう。「アカデミック・ジャパニーズ」の上記の意味合いを深め、その意味での AJ 教育研究を究めていくことは、日本語教員にとっての強力な支えとなると思われる。

(編集委員長 M.K.記)

刊行：2010 年 6 月

編集委員 (*は委員長)・アドバイザー

大島弥生 (東京海洋大学)・*門倉正美 (横浜国立大学)・佐藤勢紀子 (東北大学)
嶋田和子 (イーストウエスト日本語学校)・二通信子 (東京大学)・堀井恵子 (武蔵野大学)

アドバイザー協力者

池田隆介 (北九州市立大学)・石毛順子 (国際教養大学)・石塚京子 (埼玉大学)

鹿嶋彰 (弘前大学)・倉持益子 (中央学院大学)・嶋津拓 (長崎大学)

高橋薫 (お茶の水女子大学) 武一美 (早稲田大学)・田中信之 (北陸大学)

茂住和代 (東京情報大学)・宮崎七湖 (早稲田大学)